

指定管理者制度導入施設評価票
評価対象年度【令和7年度】

施設名	秋田県ふるさと村	所在地	横手市赤坂字富ヶ沢62-46
指定管理者	株式会社秋田ふるさと村	県所管課	観光文化スポーツ部観光戦略課

1 施設の概要													
設置目的	秋田県の文化遺産を次代に継承し、また郷土の文化を創造する機会を提供するとともに、観光レクリエーション活動のための利便の増進を図り、県民のゆとりある文化的な生活の向上に寄与するほか、県内外の交流を促進することで地域の活性化を図る。												
県の施策上の施設の位置付け	人口減少の進行やデジタル技術の進展等のほか、コロナ禍により旅行ニーズの個人化・個性化が一層強まるなど、観光を取り巻く環境が大きく変化している中、自立した稼ぐ観光エリアの形成に向けた地域観光の中核施設												
設置年	1993年	経過年数	33年	目標使用年数	60年	残年数	27年	施設面積	敷地面積156,100.39㎡、延床面積18,167.05㎡				
施設の設置状況	ドーム劇場、ワンダーキャッスル（アスレチック・トリックアート等複合館）、星空探検館スペース（プラネタリウム）、工芸展示館、ふるさと広場、ふるさと市場（物販・軽食）、郷土料理館 など												
県内類似施設	－					東北各県類似施設	－						
施設の基本的な方針 （個別施設計画）	方向性	方向性に向けた対応											
	存続	施設の機能維持と利用者の安全確保のため、設備機器等の計画的な改修・更新を行い施設を存続させる。											
料金制	利用料金併用制	主な料金設定	別紙による										
指定期間	令和8年4月1日 ～ 令和18年3月31日（10年間）					営業期間・時間	通年 9時30分～17時（ただし1月に10日間の休業あり）						
指定管理業務の内容	秋田県ふるさと村に関する次の業務 ①管理運営業務②施設設備維持管理業務③企画運営業務④事務処理業務					自主事業の内容							
サウンディング実施対象	○	年間利用者数 （人）	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	年間利用収入 （千円）	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
			352,604	478,166	551,657	739,259	579,635		76,678	98,760	119,192	126,727	115,489
収支決算 （千円）	項目		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	増減要因の分析					
	収入	利用料収入	76,678	98,760	119,192	126,727	115,489	年間利用者数	新規を含めた自主と会場利用によるイベントの精力的展開、インバウンドを含めた団体客の誘致強化、SNSによる効果的な情報発信など、様々な取組みにより利用者数の増加に努めたが、秋以降、クマの異常出没やインフルエンザの大流行、年末から2月上旬にかけての度重なる寒波等により集客にブレーキがかかり、年間利用者数は目標を若干下回った（99.1%）。また、併設する県立近代美術館で開催された「ジブリ展」の効果で大集客となった前年度との比較では78.4%と大きく減少した。				
		指定管理料	190,607	161,477	161,477	161,477	161,477						
		その他収入	195,539	246,906	250,092	304,399	274,770						
		合計	462,824	507,143	530,761	592,603	551,736						
	支出	人件費	123,657	115,138	120,791	128,114	122,994	収支決算	収入については、インバウンド等の団体利用が増えたことにより直営事業収入（レストラン等売上げ）は大幅に増加したが、全体利用者数の大幅な減少により入館料、テナント収入等も大きく減少し、全体では前年度比93.1%となった。 支出については、直営レストラン利用者の増加に伴う仕入食材等の増量や原価の高騰、人件費、資材等価格の上昇に伴う施設管理受託原価の高騰等はあったものの、退職事情等による人件費の減少や水光熱費の抑制等に伴う販管費の減少等により、全体では前年度比94.6%となった。 以上により、3期連続の黒字とはなったものの、前年度からの大幅な減益（44.7%）となった。				
		光熱水費	77,644	95,718	101,139	98,949	96,297						
		修繕費	95	430	0	9	0						
		委託料	115,600	113,457	115,017	124,241	126,468						
		その他支出	165,877	192,014	181,209	224,064	198,280						
		合計	482,873	516,757	518,156	575,377	544,039						
	収支差		▲ 20,049	▲ 9,614	12,605	17,226	7,697						

指定管理者制度導入施設評価票
評価対象年度【令和7年度】

施設名	秋田県ふるさと村	所在地	横手市赤坂字富ヶ沢62-46
指定管理者	株式会社秋田ふるさと村	県所管課	観光文化スポーツ部観光戦略課

2 <観点Ⅰ>施設の設置目的（施設の目指す姿）の達成に関する取組

運営方針・ 施設の利用目標	(R 6 年度以降に指定管理を開始・更新する施設から基本協定書に定めることとなっているため、それまでは記載不要)				
目標・実績	目標の内容	利用者数 585,000人			
	年度	R 5	R 6	R 7	増減要因の分析
	目標	550,000	630,000	585,000	夏までは目標ペースで推移していたが、秋以降のクマの異常出没やインフルエンザの大流行、冬の寒波等による利用控えで集客にブレーキがかかり、目標には若干届かなかった。
	実績	551,657	739,259	579,635	
	達成率	100.3%	117.3%	99.1%	
	具体的な取組とその効果	・自主事業と会場利用のベストミックスにより毎週切れ目ないイベント展開に取り組み、賑わいづくりに努めた（年間イベント利用者数は自主199,580人、会場利用42,177人の合計241,757人）。 ・ドッグショー、カーミーティング、興行系コンサートなど新規の会場利用も多く誘致したほか、新テナントの誘致を実現した。 ・インバウンドについては、商談会参加やファミツアー等の受入れ、その嗜好を踏まえた食事や体験の提供等に努め、過去最高の13,116人となり、団体客数も押し上げた。 ・情報発信については、特にSNSの効果的な活用に取り組み、「おやつフェス」のInstagram広告ビュー数は春8万回以上、秋44万回以上とバズった状況になった。 ・県の冬季誘客促進事業「秋田冬アソビ割」の積極的活用にも努めた（全体利用数 延6,470人）			
次年度の目標	目標の内容	利用者数 590,000人			
	設定の根拠	新たにオープンする横手市立体育館来館者の誘引や横手市増田まんが美術館との連携強化に努めるほか、7月開催の「第50回全国高等学校総合文化祭」や9月のシルバーウィーク等のタイミングも確実に集客増加につなげる。また、インバウンドを含む団体集客にも引き続き注力し、全体利用者としては前年度の目標・実績を上回る59万人（うち団体45千人）を目指す。			
<観点Ⅰ> 評価	評価者	評価	評価コメント（評価基準によらない場合はその理由）		
	指定 管理者	B	目標未達成（99.1%）のためB評価とする。		
	県 所管課	B	熊の出没等の影響を受けながらも、ほぼ目標を達成している。 今後も魅力的な企画等を実施し、地域観光の牽引を期待したい。		

3 <観点Ⅱ>施設の有効性（利用者の満足度）の向上に関する取組

利用者満足度 の実績	年度	R5	R6	R7	増減要因の分析
	実績（%）	89.9	90.9	90.0	利用者のアンケート等や単発の意見等を踏まえ、タイムリーに改善につなげており、近年、利用者の満足度は令和7年度を含め90%程度で推移している。
	具体的な取組とその効果	・満足度を5段階で記入してもらうアンケート用紙を館内3か所に設置しており、令和7年度は回収総数422件のうち、「すばらしい(336件)」「良い(44件)」の合計が380件で、満足度90.0%となった。 ・アンケート結果はもとより、単発で寄せられた不満やクレーム、意見についてもテナントを含む全スタッフで速やかに共有して改善につなげるとともに、クレーム等の相手方が特定できる場合は、その改善策を対面又は電話、メール等によりお知らせしている。また、テナントとの会議（年5回程度）でも、接客サービス向上を呼び掛けている。 ・令和7年度は物販・料飲店に新たなPOSレジシステムを導入し、コード決済可能な環境も整え、サービスの向上につなげた。また、物販コーナーのお客様の動線を改善するため、レイアウトの変更を行った。			
<観点Ⅱ> 評価	評価者	評価	評価コメント（評価基準によらない場合はその理由）		
	指定 管理者	A	わずかではあるが、不満の声やクレームが寄せられたことを重く受け止めつつ、利用者アンケートによる満足度が90.0%であることを踏まえ、A評価とする。		
	県 所管課	A	利用者満足度は過去3年間に於いて約90%となっており、運営について利用者に評価されているものと考えている。		

指定管理者制度導入施設評価票
評価対象年度【令和7年度】

施設名	秋田県ふるさと村	所在地	横手市赤坂字富ヶ沢62-46
指定管理者	株式会社秋田ふるさと村	県所管課	観光文化スポーツ部観光戦略課

4 <観点Ⅲ> 県民サービス及び業務効率性の向上と公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組					
モニタリング項目	モニタリング項目		主な視点	指定管理者	県所管課
	管理運営体制	① 職員の配置状況	事業計画書等に照らして適切な職員配置となっているか 等	B	B
		② 職員の勤務実績	事業計画書等に照らして適切な勤務実績となっているか 等	A	A
		③ 職員の処遇等	職員の処遇が労働法規に反していないか 等	A	A
		④ 施設等の適切な管理	事業計画書等に照らして日常的な保守管理や定期点検、清掃、警備、修繕等がなされているか 等	B	B
		⑤ 備品の適切な管理	備品の紛失・損傷はないか 等	A	A
		⑥ 個人情報の保護	個人情報取扱特記事項が遵守されているか 等	A	A
		⑦ 安全・安心の確保	事故防止マニュアルや緊急時連絡体制を整備しているか 等	A	A
		⑧ 経費の低減・収入の増加	経費の低減や収入の増加の取組が進められ、前年度と比較し、施設の収支状況が改善されたか 等	B	B
		⑨ 健全な経営	指定管理者選定時の財務指標と比較し、特段の経営の悪化がみられないか 等	B	B
	サービス向上	① 開館日・開館時間等	事業計画書等に照らして適切な開館状況となっているか 等	A	A
		② 業務の実施	事業計画書等に照らして適切な業務が実施されているか 等	A	A
		③ 施設の使用許可	事業計画書等に照らして適切に使用許可がされているか、優先的又は不利益な取り扱いはないか 等	A	A
		④ 職員の接客	丁寧な対応や挨拶がなされているか、名札着用や適正な服装をしているか 等	B	B
		⑤ 広報・利用情報の発信	ウェブサイトやSNS、パンフレットなど、多様な媒体により積極的な広報を実施しているか 等	A	A
		⑥ 利用者の相談・意見・苦情	ウェブサイトや電話等による相談窓口を整備し、利用者からの相談・意見・苦情への対応策を講じているか 等	A	A
		⑦ 課題への対応	利用状況のほか、満足度調査等から課題を抽出し、対応策を講じているか 等	B	B
<観点Ⅲ> 評価	評価者	評価	評価コメント（評価基準によらない場合はその理由）		
	指定管理者	B	次のモニタリング項目以外は大きな課題もなくA評価とする。全体としては4割近い項目がB評価のため総合評価をBとする。 （管理運営体制関係） ①については、フレキシブルな人員配置等により施設の運営はできているが、将来も見据えた組織力の強化という観点からは人員不足の状況にあるため、B評価とする。 ④については、テナントや貸館関係者を含む利用者へのサービス低下を招きかねない老朽化対応の遅れといった課題があるため、B評価とする。 ⑧については、3期連続の黒字とはなったものの、ジブリ展効果が大きかった前年度と比べると純利益が44.7%の減益となったため、B評価とする。 ⑨については、指定管理者選定時の令和7年度目標が利用者70万人、純利益10,000千円と高かったこともあって、当該目標には及ばず、B評価とする。 （サービス向上関係） ④については、総合的な満足度は比較的高いが、一部テナントや催事出店者等へのクレームが寄せられたこともあるため、B評価とする。 ⑦については、その都度改善に努めてきているが、アトラクションの利用の苦戦や繁忙時のフードコートの席数不足など、課題は皆無ではないため、B評価とした。		
	県所管課	A	全てのモニタリング項目においてB評価（概ね順調）となっており、その良好な結果が利用者満足度や収支状況にも表れている。 今後も、刻々と変化する経営環境下において、柔軟な施設運営が行われることを期待する。		

指定管理者制度導入施設評価票
評価対象年度【令和7年度】

施設名	秋田県ふるさと村	所在地	横手市赤坂字富ヶ沢62-46
指定管理者	株式会社秋田ふるさと村	県所管課	観光文化スポーツ部観光戦略課

5 県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方		
県の施策の達成状況	年間約60万人が利用する観光拠点であり、観光利用だけではなく「クラフト市」や「あきたNEXTモーターフェス」などのイベントを開催しており、様々な顧客の誘客に寄与している。	
施設運営の課題	施設設置から33年が経過しており、利用者の安心・安全に配慮し、計画的な修繕を実施する必要がある。	
今後の方向性	県南地域の観光拠点として周辺施設との連携や、これまで活用されなかったイベントの実施に向け庁内の他部局と連携して多方面の団体や事業者を活用を促す。	
6 外部有識者委員会による評価（提言）		
評価(提言) 令和5年度	施設の管理運営状況	- 様々な面での努力（効率的・柔軟な人員配置や具体的な経費低減対策など）と収支増減についての分析力は評価できる。 - 赤字経営の原因と今後の改善策について検討が必要と考える。かなり大規模の設備が整った施設であり、従来の発想にとらわれない外部の発想や資本導入の検討も必要であるとする。 - コロナ禍で大きく減少した入村者数も今後は一定程度回復することが見込まれるが、それに伴い人件費増加も想定されるため、客単価増に向けた取組についても検討が必要と考える。
	県の施策達成に向けた施設運営	- 年間50万人近くの集客実績は県南地域の観光拠点としての役割を十分に果たしていると考えられ、地域への貢献度も高く評価できる。引き続き県南地域および秋田県の観光拠点として誘客を図っていただきたい。 - 施設の老朽化対策等については検討が必要と考える。県や関係自治体の財政上、施設の更新に係る投資経費の捻出が厳しければコンセッション化（民間投資）への移行も視野に検討が必要と考えられる。また、将来的には魅力アップ化を目指した新アトラクションへの投資及び小さい子どもがいる世代向けの環境整備（多目的トイレ充実化等）の検討も必要と考える。
評価(提言)を踏まえた対応方針 令和5年度	指定管理者	- 近年、メディア等との共催による大型イベントの展開やスポンサー協賛など、外部資源の活用等に力を入れており、今後も継続的に取り組んでいく。 - アトラクションや飲食等の個別のコンテンツの魅力アップに一層努めるとともに、それらのセット利用を促進する仕掛けを設けることなどにより客単価の向上に努めていく。 - 令和5年度は、入場者や売り上げのアップ、組織や人員シフトの効率化、省エネ化等の取組により黒字転換の可能性が見えてきており、今後もそうした取組を強化しながら再び安定的に黒字を維持できるように努めていく。
	県所管課	- 原則としては、指定管理者制度により民間のノウハウを活用しながら、県の主要観光拠点としての役割が果たせるよう施設の運営を行っていく。 - 施設の老朽化対策としては、緊急性及び必要性の高い修繕について個別施設計画等に基づいて実施していく。 - 新アトラクションについては、施設の性格・役割を踏まえた必要性や費用対効果等をよく検証し、導入について判断する。
対応方針の進捗状況 令和7年度	指定管理者	- メディア等との共催により大型イベントの効果的な展開に努めたほか、企業等による新たな会場利用（イベント）も積極的に誘致するなど、外部との連携を強化し、全体としての効果的、効率的にぎわいづくりに努めた。 - 県立近代美術館や増田まんが美術館と相互の情報発信を中心とした連携に努めたほか、令和8年6月に近くにオープンする横手市体育館の利用者の誘引を図るべく、関係者との情報交換を進めた。 - また、新たに近隣ホテルの宿泊者向けに当施設利用の低廉なチケットを販売するといった連携も開始した。 - 客単価の向上に向けた複合利用を促進するため、県の需要促進策「秋田冬アソビ割」を積極的に活用したほか、お得に楽しめる親子ペア券の企画や複数のアトラクションの利用キャンペーンを展開した。なお、客単価（業務受託収入を除いた営業収入を利用者数で除したもの）は前年度が大集客だったこともあり、485円から552円に改善している。
	県所管課	利用者の安全・安心を第一に、施設設備の修繕を実施した。 今後も個別施設計画に基づき、緊急性・必要性の高い修繕について実施していく。